

## 12 検査部

連絡先：  
075-751-3502（部長室）

### 診療部の特徴

- 1) 高度先進医療のサポート
  - ・検査の迅速報告と業務の効率化、省力化、低コスト化
- 2) 感染症診療の情報源
  - ・感染制御部との密な連携
- 3) 遺伝子細胞検査
  - ・移植医療への貢献
- 4) 生体検査の充実
  - ・循環器関連検査の検査部への集約



中央採血室

### 沿革と業務体制

当大学病院は地域医療機関としての役割を担いながら、最先端の高度医療を推進するとともに教育機関としての責務を負っている。臨床検査業務を行う検査部は中央診療施設の主要部門として、質の高い臨床検査を速やかに診療側へ提供している。

### 業務内容の特徴と実績

平成 17 年度はこれまで実現してきた検査部のシステム化、迅速化と経費の削減および人員の再配置をさらに着実に進め、外来棟中央採血室への配置を増やして外来患者の採血待ち時間が激減するなどに貢献している。シフト勤務を積極的に導入して外来化学療法部の業務態勢に連動した早出シフト勤務の実施、超過勤務削減を目指した遅出シフト勤務を実施して診療科へのサービス向上と運営経費の削減に貢献している。検査の質的向上についても取り組みを続けており、新規検査項目を導入して迅速化、低コスト化を図るとともに、総合臨床教育研修センターのメディカルスタッフ

研修に積極的に協力して研修機能の強化に取り組んでいる。

#### 1) 検体検査部門

システム部門は、検査業務の効率化、迅速化、省力化、低コスト化を目的として、新システム (MOLIS) と自動分析装置を接続した搬送ラインを中心に構築されている。高機能な検査進捗管理機能を活かし、検査結果の報告を迅速に行ない、外来至急検査は検体到着から報告まで血液検査で 30 分、化学系検査で 1 時間前後、腫瘍マーカーや内分泌系検査の大部分を即日報告している。このため、外来診察前検査や検査後再診察が可能となり、優れた臨床の有用性を発揮している。

外来採血室は検査部の管轄下に置かれており、本年度は採血担当者を部内の調整により 2 名増加配置して、外来患者の採血待ち時間短縮に大いに貢献している。

平成 17 年 1 月から稼働した新病院情報システムへの対応として、従来のデータを支障なく移行させたことに加え、検査報告書のペーパーレス化、パニック値の電話連絡などシステム機能を活かした取り組みを実現した。ヘモグロビン A1c や蛋白分画といった図形データ、造血器腫瘍核酸増幅定性・定量検査、クラミジアトラコマチスおよび淋菌核酸同定精密検査、白血球中サイトメガロウイルス pp65 抗原検査などいずれも電子カルテにてオーダーと参照が可能になった。

入院患者用採血管の供給態勢は順調に推移しているが、平成 18 年度開棟の CCU に対しても採血管の払出を実施する予定である。

新規検査項目の拡充と経費削減の取り組みについては、ノンリア系検査として本年度新たに実施した検査項目は神経特異エノラーゼ (NSE)、ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド (hBNP) および成長ホルモン (GH) の 3 項目であり、従来 2 日間を要していた平均検査報告時間が約 2 時間に短縮。外来患者の即日診断治療にも利用可能となった。また、年間 2000 万円近い検査経費の削減にも貢献している。



ノンリア分析器

・感染症検査の迅速化に対応して、尿中レジオネラ抗原と尿中肺炎球菌抗原検査を開始して、従来 2 日から数日かかっていた検査日数を約 30 分に短縮した。特にレジオネラの検査は検体として BAL (気管支洗浄液) 等を用いる必要があったが、新しい検査では随時尿で検査可能であり簡便で精度も高く、感染症診断に有益

## 検査部

であると評価されている。

・試薬・消耗品経費の削減；平成 17 年度検査試薬支払い実績ベースの比較において年間の試薬経費の削減額は 4000 万円を上回り経費改善に貢献した。

・平成 17 年度には総合臨床教育・研修センターにメディカルスタッフ研修部会が組織され、細菌検査基本技術研修コース、移植医療における遺伝子細胞学的検査診断コースおよび検体検査尿沈渣コースの 3 コースを開設した。いずれも、病院等に勤務する臨床検査技師を対象としたもので、着実に研修生を受入れて行く予定である。

### 2) 生理機能検査部門

生理機能検査部門は、種々の診断機器を用いて臨床診断に必要な情報を患者様から直接検査する部門であり、主な検査項目としては、脳波、筋電図、誘発電位、神経伝導速度測定など脳・神経・筋系の検査を行っている。また呼吸機能、心電図、ホルター心電図、トレッドミル運動負荷心電図、心音・心機図、心臓超音波・血管超音波など呼吸・循環器系の検査を行っており、腹部大血管や腎動脈、四肢の動脈および静脈の評価にも取り組んでいる。また消化器内科と連携し、尿素呼吸試験も担当している。

当部門の特徴としては、脳死判定を含めた病棟への出張脳波検査（ABR を含む）を実施している他、心臓・血管超音波検査の出張検査にも循環器内科と協力の上対応している。腹部超音波検査などの心臓・血管以外の超音波検査についても導入にむけ現在検討中である。

また、院内外を問わず、超音波検査の見学・研修も受け入れており、好評を得ている。

各検査オーダーに関する説明は、医師向けのオリエンテーションや検査部マニュアルを作成することによって行っている。



超音波検査

### 高度先進医療等への貢献

検査部は中央診療施設として各診療科における先進的医療を支える立場にあるが、検査項目によってはそれ自体が先進的内容であるものもある。EB ウイルスやサイトメガロウイルスの定量検査は、移植医療において欠かせないものとなっている。探索医療センター等のプロジェクトへの参加など、今後更に感染症・遺伝子検査領域での先進的取り組みが計画されている。また、生理機能検査部門においても種々の高度先進医療を支える検査データを提供している。

### 平成 17 年度検査部検査実施件数

(件)

検査項目	外来	入院	合計
一般検査	97,108	32,496	129,604
血液学的検査	362,128	316,089	678,217
生化学的検査	2,211,570	1,783,859	3,995,429
内分泌学的検査	96,042	32,606	128,648
免疫学的検査	184,234	130,351	314,585
微生物学的検査	12,124	58,460	70,584
病理学的検査	14,327	12,160	26,487
その他の検体検査	4,122	3,160	7,282
検体検査 小計	2,981,655	2,369,181	5,350,836
(時間外・緊急検査) (再掲)	(46,348)	(271,186)	(317,534)
循環器機能検査	14,039	6,420	20,459
脳・神経機能検査	2,245	1,214	3,459
呼吸機能検査	7,755	4,723	12,478
超音波検査	6,296	5,388	11,684
その他の生理検査	202	116	318
生理機能 小計	30,537	17,861	48,398
採血・採液等	115,584		115,584
合 計	3,127,776	2,387,042	5,514,818